

議 事 録

- 1 会 議 名 令和元年度 第2回太子町都市計画審議会
- 2 開 催 日 時 令和元年 11 月 26 日（火）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
- 3 開 催 場 所 太子町役場 行政棟 3 階ホール
- 4 出席者、欠席者（敬称略）
（出席委員） 齊藤和夫、北川良弘、廣田誠、高井國昭、磯部良太（代）、田中聖児（代）、
植田吉則、中島達也（代）、塩木正昭、山本武志、首藤佳隆
※（代）：代理人が出席
（欠席委員） なし
（太 子 町） 経済建設部長 八幡充治
（事 務 局） まちづくり課 高坂文泰、三木隆史、小林俊輔、平田一馬
- 5 傍 聴 者 なし
- 6 議 事
報告第1号 太子町都市計画マスタープランについて
- 7 議事の内容
以下のとおり

1 開会	
2 挨拶	(課長 挨拶)
3 会長挨拶	(高井会長 挨拶)
	【事務局】 本日委員数 11 名のうち出席委員 11 名全員出席されていますので今回の審議会は成立しておりますことをお伝えします。
5 議事録署名委員 の指名	(廣田誠委員、齊藤和夫委員に指名)
6 議事 報告第 1 号	【高井会長】 それでは、報告第 1 号「太子町都市計画マスタープラン全体構想」について、事務局からの説明を求めます。
説明	【事務局（平田）】 全体構想
補足説明	【八幡部長】 今回のアンケートについて、前回の審議会で結果を示したが、P. 33 について、前回の都市マスと違うのは、「太子町の定住化」や「太子町の人口維持」について、どうしていくのか。高齢化とは言いながら、太子町は若い町と言われており、人口が微増している県下でも珍しい町である。しかし、裏を返せば、一気に高齢化する可能性がある。どういう経緯で若い町になっているのか、また、どのように今後動いていくのか予測を 10 年・20 年先を考えていかなければならない。このことから、前回でも説明したとおり、太子町近郊で近年に家を建てられた方々にポスティングをして、何故太子町を選ばなかったのかをアンケートで調査した。1 番は公共交通が不便であるが 73.9% となっている。そのほかにも、田舎のイメージがある、まちににぎわいが無い、子育て環境が良くないなどがあるが、やはり公共交通が重視されていることが良く分かった。P. 32 には戸建て住宅にお住まいの方々に、居住地を決める際に重要視したことについては、「良好な住環境」、「鉄道沿線・最寄駅からの距離」が挙げられている。また、「子育て施設の充実」も挙げられている。このことから、太子町にとって、姫路市域ではあるが、JR 網干駅が広域的な交流拠点になっており、現在進めている網干駅周辺の区画整理事業を見ても、分譲地の食いつきが多いことから、利便性を活かした石海地域を含めた

質疑	交通ネットワークを作りながら、住環境を良くして、定住促進をしていくという施策が必要であることが見えてきた。 また、4 地区でまちづくりの集いを実施したが、4 地区で抱える課題が 10 年を遡ってみると顕著になってきており、差が大きい。例えば、石海南地域や龍田地域では深刻で、調整区域が多いこと、農業の担い手不足のために、人口減が顕著に出ている。そのような中でコミュニティは維持ができており、逆に言えば、急激な人口減少はないが、徐々に人口が減少しているのがこれらの地域である。そういったものをどのようにコミュニティを維持しながら、外部からも人を受け入れ、地域の発展をしていくのかというのが一つの大きな課題である。ただし、調整区域に新興住宅街つくることや産業をもってくることはあまり望まれていない。コミュニティと自然環境を維持しながら、にぎわいもあって、人の定住が促進される、そのようなことが求められていることが分かった。市街化区域においては、斑鳩寺を中心とできた市街化形成地域がもうなくなってきており、空き家が顕著に出てきている。都市拠点ということで、P. 52 の将来の都市構造に示しているが、斑鳩の地域交流拠点や文化交流拠点などの都市拠点の空洞化をなくして、魅力を高める、歩行者ネットワークの中で町を巡れる、そのような空間づくりをして、都市拠点機能を再生する。そして地域の活性化を進めることが必要で、町の愛着を持ってもらい、網干駅周辺にお住まいの方は、太子町の住民ではあるが、利便性を重視して太子町に移り住んでいることが多く、そのような方にも太子町の誇りや愛着を持ってもらえるような定住施策が必要である。そのようなことを考えて全体構想を作成している。それを基に地域別構想に具体的に入りたいと考えている。 【植田委員】 P. 32 の現在の居住地を決める際に重視したことで、「鉄道沿線・最寄駅からの距離」で 59.3%といったアンケート結果と、P. 33 の「公共交通機関が不便だから」が 73.9%という結果が、相反するデータということで、おそらく住まいを太子町に決定された方は、利便性が良いから選んだ。しかし、選ばなかった人は、良くないんじゃないかなという推測のもとでデータが出てきていると思われる。アンケート結果に一定評価を加えて、どのような認識で取り組んでいくのかという部分が 1 番重要ではないのかと考える。特に石海地区に関しては、網干駅周辺で、確かに市街化調整区域が少ないとは言いながら、住宅地が滲み出しで広がっている。このようなことから、積極的に県でも誘導している特別指定区域等の施策を利用して、町を活性化していく、あるいは、地域の活力を維持しているというような施策で十分対応できるのではないかと考える。 【八幡部長】
-----------	---

まさに仰っていることのとおりだが、分析ではどのようなことをしているのか申し上げると、まず「公共交通が不便だから」ということの分析は、選んだ人は、町内の中の交通ネットワークが良くない。例えば、たつの市・網干駅間ではバスの本数が1時間に1本しかない。東西交通に関しては、たつの市域から姫路行のバスしかない。そのようなことから、現在住宅地の分譲・開発が盛んに進んでいるのは、東保や矢田部などの太田地域が多いが、そのあたりの交通利便性は、車の利便性は良いが、公共交通はよくないということ、住宅地を選択する際に回答したという予測をしている。逆に、現在の居住地を決める際に重要視したことについて、59.3%の「鉄道沿線・最寄駅からの距離が近い」ということに関しては、網干駅が新快速列車の始発駅であること、1日約8,000人が利用しているが、そういった京阪神へのアクセスの利便性が高いということが、アンケートに結果として出ているのではないかと考えている。広域的には便利な網干駅をうまく利用し、かつ斑鳩の中心部と網干駅とのアクセスをいかに良くするか、交通ネットワークを許可するか。(都)龍野線の開通後には、例えば、JR網干駅とたつの市域の本竜野駅をコミュニティバスのようなものが15分に1本走るような広域的な交通ネットワークを増やして、ツーリズムで周っていけるようなネットワークをつくるべきではないかという話が出ており、南北軸の交通強化をしたいと、企画政策課も含めて動いている。

【磯部委員（代）前羽課長】

播磨臨海地域道路について、図面関係において、計画途上でありルートは決定していない。また、上太田ジャンクションに連結することも確定していない。しかし、上太田ジャンクションは有力ではあるので、計画に記載するのは問題ない。市街化調整区域が多く残っている地域を利用するという方針は決定している。今後、姫路市広畑より先、太子町域に至るまでどのルートを描くのかはまだ不透明なところではあるが、来てほしいところを空けておくなどの検討はしていただくと良い。P.57で上太田ジャンクション周辺の流通業務施設の立地促進として新たなエリアを検討されているが、オンオフのランプがない状態で設定するのは意味がないのではないかと。当道路はどこを通るのか、どこにランプがつくのかも見えていないが、引き合いがあるのであれば問題ないが、特段そのような話がないのであれば、当道路のランプ計画に併せて設定するという記載方法もありなのではないか。

【高坂課長】

当該地が1番効率的な接続が可能であり、流通業務エリアを検討している。今後計画が進むにつれ、オンオフのランプやインターチェンジが決まったら、それを中心に検討しようと考えている。

説明 質疑	【八幡部長】 上太田ジャンクションについて、ジャンクションができるか分からないのにジャンクションという表現を使うことに是非があるが、現在も国道 29 号バイパスとのジャンクションになっており、29 号バイパスの方に上太田のインターがあり、ここにはオンオフがある。これを活用して、仮に播磨臨海地域道路の接続がなくても、この辺りに流通業務エリアを設定することは、流通業の需要が高く、地元の意向もあるため、工場立地や流通業務施設の立地など、特別指定区域を活用したものを進めていきたいと考えている。 【事務局（平田）】 地域別構想（斑鳩地域） 【廣田委員】 斑鳩地域は都市拠点があり、都市拠点の問題点は説明のとおりであるが、まとめ方として、まちづくりの目標で、各拠点のさらなる機能充実を書かれているが、各拠点とは地域交流拠点や歴史拠点、文化交流拠点を指していると思うが、そこについては、現行プランでは、まだ庁舎はなく、拠点の充実が必要であったように思うが、ほかのところでも、回遊性やにぎわい創出については書かれている。現在、ある程度整備されたところに更なる機能の充実というのが理解に苦しむ。また、交流促進に努めると記載のある交流とはどこ何を交流するものなのか。この問題点は住宅地が多く、小規模の店舗がないという地域の問題を抱えている。P. 78 に小規模店舗を集積し、拠点性の向上を図るとあるが、当地域の利便性の向上だと理解できるが、拠点性の向上を図るために、広域土地利用プログラムの大型店舗の誘致であれば、拠点性の回復も図れるが、小規模店舗の集積は利便性の向上を図れるが、拠点性の向上は図れないと考えるがいかがか。 【三木副課長】 何との交流か。歴史拠点である斑鳩寺、文化交流拠点であるふるさと文化村、地域交流拠点である役場庁舎の各施設の利用者間に、新たな出会いや交流を創出し、この 3 施設を結ぶ、回遊できる歩行者ネットワークというものを新たに整備し、3 施設を結ぶトライアングルを面として拠点性を回復しようと考えている。大規模集客施設については、1 つの施設で拠点性を回復することは可能であるが、現実的には難しく、面として都市拠点の中のエリアを拠点とし、中心性の回復をしようと計画している。 また、一昨年にとめた太子町立地適正化計画でも同じく斑鳩周辺は都市拠点と位置づけている。網干駅前広域交流拠点とともに 2 つの拠点を結んで、交流を盛んにしていく位置づけになっている。その中でも都市拠点としての中心性が薄れてきているということを問題視しており、中心性・拠点性を回
---------------------	---

	復していくと位置づけているため、これと整合させるためでもある。 【廣田委員】 この地域の中で、商業の衰退など居住環境そのものが中心市街地として上手く機能していないことが問題であり、それを解決するために、小規模店舗の集積は良いと考えるが、それは拠点のことではなく、地域の利便性を高めることではないか。一方で、広域土地利用プログラムでは準広域商業ゾーンとして、大規模店舗を誘致できる位置づけになっている。それを都市マスに記載するのであれば、それが都市拠点を整備する目標として、そういう位置づけになるのではないかというストーリーが予想されるが、実際に記載のあるのは、小規模店舗の集積で、前段の記載との組み立てに違和感がある。 【八幡部長】 小規模店舗などを集積し拠点性の向上を図ることと、前段の記載とのブレがあるので、拠点性の意味を捉え直す。例えば、広域的な集客が見込める大規模店舗の立地が鶴東周辺のエリアで認められているが、そのようなものも含めた拠点性というような位置づけへの変更の検討をさせていただきたい。 【廣田委員】 まちづくりの目標の利便性の高い交通網を構築するまちづくりとあるが、斑鳩地域では新たな公共交通の導入と記載がある。新たな公共交通サービスの導入というものが太田地域を除いて3地区に記載がある。しかし、これを受けたP.81では、環境に優しく利便性の高い公共交通の確保のところには、斑鳩地域については、既存交通の利便性向上を促進しますと記載があり、この書きぶりは、新たな交通サービスの導入と謳っていない太田地域と同じ書きぶりになっている。石海・龍田地域については、誰もが自由に行き交いできる新しい公共交通システムを導入するということが書いてあり、この斑鳩地域の記載は間違えているのではないか。現行プランには、全地域に共通して同じような公共交通サービスの導入とあり、今回は少なくとも太田地域にその記載がない。この書きぶりから考えると斑鳩地域もないのではないか。
説明	【事務局（平田）】 地域別構想（石海地域）
質疑	【磯部委員（代）前羽課長】 P.94で河川の親水機能の向上ということで、石海地域の話ではないが、林田川の水生生物セミナーの話があった。課題に自然を活かしたレクリエーション機能が望まれますといった記載があるが、何か水生生物セミナー以外にレクリエーション機能を持たせる構想があるのか。後日でも構わないので、

	調整させていただければと思う。 【高坂課長】 河川を何かに活かせれば良いなということで記載を加えた次第である。 【植田委員】 P. 25 の浸水想定区域の図面と P. 89 の新たな公園配置の検討とあるが、ここはおそらく浸水想定区域に入るのではないかとと思われる。P. 93 の公園・緑地に関する方針で、災害時の避難場所ともなる新たな公園の配置となっているが、浸水想定区域に含まれている状況も踏まえて何かこの文章に付け加える必要があるのではないかと。この記載のままだと浸水想定区域に避難場所となる新たな公園をつくるという風に読み取れてしまう。 【高坂課長】 浸水想定区域に含まれているため、高台を設けて避難できるように整備する方向で検討している。記載については修正する。 【八幡部長】 自然を活かしたレクリエーション機能について、課題としては河川を借りて遊歩道などの住民に親しまれるような取り組みをして、散歩やゴルフの素振りをしている方が多くいる。もう少し広域的に土手からの景観、例えば立岡山を臨む景観など、そういうものが子どもたちに親しまれ、運動をするなど、レクリエーションとしての活用ができないのかという課題があり、現状お金をかけて草刈りをしてもらったりしている。少し有機的に動かしていこうというのが目標である。そのため、国交省に協力をお願いするものではない。 【磯部委員（代）前羽課長】 水辺リングという取組を全国的に進めている。水辺空間を活用したにぎわいの創出など、そのような取組を行っている。もし、力添えできることがあれば、協力させていただく。
説明	【事務局（平田）】 地域別構想（太田地域）
補足説明	【八幡部長】 原池団地、鼓ヶ原団地、美原台団地の3つは線引き前からつくられた開発団地であるが、空き家調査をすると、近年空き家が増えてきている。そこで1番危惧しているのが、単価が安くてもなかなか売れない。市街化区域と比

	較してもあまり価格差はなく、中古の流通ができていないのが現状である。このことから、住宅以外のものが建ってしまう。例えば、2 軒の空き家ができてそこを取り壊し、事務所にして土建業の事務所や資材置き場になってしまう。それによって周辺の住環境が崩れていくということを危惧している。できるだけ早期に地域住民の高齢化もあるが、合意形成を図れたら、地区計画等を検討しながら、ある程度の用途の制限や、建物のコントロールをしていきたい。また、魅力があるような団地にしていかないといけないことから、3 つの団地を繋ぐことを考えている。福井大池が整備され、この周りを日頃から健康づくりのために回遊される方が非常に増えている。そのようなことから、この度太田公園に高齢者向けの健康遊具の設置を検討していることから、歩きながら健康づくりができる空間を団地の中でつくり、団地再生ができないものかと考えていきたいと思っている。なので、これらの団地においては積極的に動こうとしている。 また、国道 179 号の沿線には太陽光パネルや飲食店があり、線引き前から既存宅地でスプロール化したような土地の乱雑さが見られる。このあたりを沿道景観に相応しいものにするために、特別指定区域や地区計画等を検討して、団地再生と併せて周辺の魅力向上ができないかと課題として挙がっている。 【植田委員】 P. 101 にその記載があるが、P. 102 と 103 には記載がないため、記載を追加しなければならない。原池団地、鼓ヶ原団地、美原台団地は(旧)宅地造成事業法による認可でできた団地だと思われるが、その 3 つを繋ごうとしたときに、その間のインフラの整備状況はどのようなものか。 【八幡部長】 その区間のインフラについては、歩行者ネットワークもできており、信号も有し、子どもの通学路にもなっている関係で十分に繋がっていくイメージはできると考えている。福井大池についても、周辺を遊歩道として整備しているため、活かしていくことができると考えている。 【植田委員】 それであれば、現地は把握していないが、3 つを大きく囲うのもありではないか。
説明	【事務局（平田）】 地域別構想（龍田地域）
質疑	【三木副課長】

質疑

先程、指摘のあった公共交通の記載について、町内には南北のバス路線、さらに国道 179 号の東西のバス路線と 2 つある。それぞれ、斑鳩、石海、太田地域にサービスを提供しているが、龍田地域においては、公共のバス路線はない。その違いが各地域の表現の違いとなっているが、今後、バス交通のサービス水準の向上というものは、路線のある 3 地域同様の課題である。さらに、誰もが利用できる、自由に移動できる新たな公共交通の導入は、町内 4 地域共通の課題である。そのため、統一的な表現に改める。

【齊藤委員】

龍田地域の太子北ランプ周辺の沿道施設の立地促進という記載があるが、この地は流通系の誘致を目指すといった内容になっていたと思うが、その内容を沿道施設の立地促進という形に今後変更していくということなのか。

また、斑鳩地域の流通業務施設の立地促進と記載があるが、このあたりは考え方として違っているということだと思うが、斑鳩地域の流通業の立地状況も踏まえてその考え方を教えていただきたい。

【三木副課長】

太子北ランプの周辺については、もうすでに流通業務施設として設定がされている土地である。次回の審議会で諮るが、現状では流通業務に限った土地利用を許容していくというような基本方針である。この場所においては、自動車で来町される方が多く、町の玄関口になっていることから、流通業務に特化した土地利用ではなく、商業系の土地利用も許容していく方向である。さらに、その南側、総合公園の西向かいの土地については、総合公園と相乗効果を得ながら、にぎわいを創出していくような施設の立地を許容していくという考えである。他のバイパスランプについては、流通業務に特化した土地利用を許容していくといった考えであり、太子北ランプについては、特別な位置づけを持っている。

【齊藤委員】

現在、太子北ランプの周辺には中古自動車の販売店があり、最近では流通業務系の大きな倉庫が来ていることから、整合しているのではないかと考える。沿道施設の立地において、将来的に起きるのか起きないのか、今後の変更を考えられているのか、意見を聞かせていただきたい。

【八幡部長】

流通業務エリアの設定をインター周辺に設置し、その北には松尾地区が特別指定区域で独自に新規居住者区域を交えた計画を立てている。今回は機運が高まりその見直しを行っている。ひとつは、太子北ランプ周辺には、居酒屋や中古車センター、大規模な流通業務があり、どちらかといえば、狙っ

ていた土地利用とは違ってきた。例えば、事務所が小さくトラックが羅列しているようなものもあれば、倉庫業が主体のような流通業もあり、景観としてのイメージが違ってきた。そこで指導の中で、緑化などを進めているが、太子町の玄関口として、ボリューム感のある大きい建物があり、殺伐とした感じが見受けられるため、そういったものも許容しながら、龍田地域の住民の方々にとって、利便施設になるような、総合公園の来園者を引き留められるようなにぎわいがつくれないかという課題がある。それをこの度、松尾地区の特別指定区域の見直しの中で、沿道施設の立地促進という一つの目的を持った特別指定区域に見直そうという機運で進められている。動きを見ながら実情に合わせて、補正していくといったイメージである。

【廣田委員】

播磨臨海地域道路について、計画があまり定かでないといった話もあったが、都市マスに記載はしている。龍田地域には記載があり、太田地域は薄く線だけが入っている。太田地域の方針図に播磨臨海地域道路の文字は入れないのか。

【高坂課長】

播磨臨海地域道路をもう少しぼかしてほしいと希望があったため、推敲させていただく。

【平田】

太田地域の方針図については、龍田地域と異なり、太田地域に播磨臨海地域道路に関する記載がないため、播磨臨海地域道路の表示を消す予定であった。そのため、修正させていただきたい。

【廣田委員】

龍田地域には残して、太田地域では残さないとするならば、道路の繋がりとしておかしくなる。龍田地域だけ残すのはおかしい。

【高坂課長】

繋がり重要であるため、大きな丸で薄く図中に挿入することにする。

【植田委員】

斑鳩地域と石海地域において、公共下水道の話として、集中豪雨時に予想される浸水箇所が分布していますという表現があり、適切な雨水排水のための施設整備は必要ですという記載があるが、これの該当箇所は限定的に分かっているのか、あるいはそういったものが予想されているだけなのか、課題の認識として教えていただきたい。所謂、河川の浸水想定とは別に記載がさ

9 閉会	れているように見受けられる。もし、資料がいただけるのであれば、別途で構わない。 【高坂課長】 確認する。 【高井会長】 本日予定されていた案件は終了いたしました。 では、会の進行を事務局にお返しします。 【高坂課長】 ありがとうございました。 それでは高井会長の議事進行によりまして、本日予定しておりました案件について終了することができました。 また、今後の予定につきましては、松尾地区他の特別指定区域の変更について、太子町都市計画マスタープランについて、作成した案を 12 月下旬に審議いただくことを予定しております。(12 月 20 日 13 時半からに決定) それではこれで令和元年度第 2 回太子町都市計画審議会を終了したいと思います。委員の皆様には、長時間にわたりましてご審議いただきありがとうございました。
-------------	---

上記のとおり相違ないので署名します。

署名委員

廣 田 誠

齊 藤 和 夫